

高山市シビックコア地区整備計画の策定について

国土交通省中部地方整備局営繕部計画課

いしがき ひろたか
 営繕監督官 石垣 浩孝



はじめに

シビックコア地区整備制度は、平成5年3月に建設省の大臣官房官庁営繕部、都市局、住宅局の3部局の共管により創設された制度で、平成14年度までに全国の12都市で整備計画が策定され、整備が進められています(図1)。

平成15年3月31日に、地方分権化の進展、行政改革による組織変更等の流れを受け、制度が一部改定されました。

平成15年8月29日には制度改定後の全国第1号として、岐阜県高山市により、高山市の中心市街地のまちづくり計画である「高山市シビックコア地区整備計画」が策定され、中部地方整備局の同意を受けています。



図 1 シビックコア地区整備計画の分布

2

シビックコア地区整備制度の改定

シビックコア地区整備制度は、国・地方公共団体・民間等が連携しながら施設の整備を進めることにより、官公庁施設の整備と関連する都市基盤整備等を一体的かつ計画的に整備しようとするもので、地域の特色や創意工夫を生かした拠点形成、良好な市街地環境の形成を積極的に図ることを目的としています。

中部地方整備局管内では、岡崎市、浜松市が承認を受けており、岡崎市では、地方合同庁舎を含む「シビックプラザ」がすでに完成し、駐車場の共同利用等、市と国の施設が連携した、魅力と賑わいのある都市の拠点地区が形成されています。

今回、改定された制度は、国と地方が相互に協力して、一層、シビックコア地区の整備を推進することとしています（図 2）。

主な改定点は次のとおりです。

- (1) 地方整備局が整備計画に同意する手続きに変更
 - ・国の「承認」を「同意」に改め、手続きを「国土交通省」から「地方整備局等」に変更しました。
- (2) 国と地域がパートナーシップに基づきシビックコア地区の整備を推進
 - ・国と地域が協力・連携してシビックコア地区の整備を推進することを目的として明記しました。
- (3) 市町村は整備計画の策定にあたり、国と協力する
 - ・整備計画の策定にあたり、市町村は国と協力し官庁施設の適切な位置の設定、敷地の適正な利用が図られるよう配慮することとしました。
- (4) 国は施設建設計画の策定にあたり、市町村の意見を聴く
 - ・連携の観点から、官公庁施設建設計画の策定にあたり、県・国は市町村の意見を聴くことを追加しました。

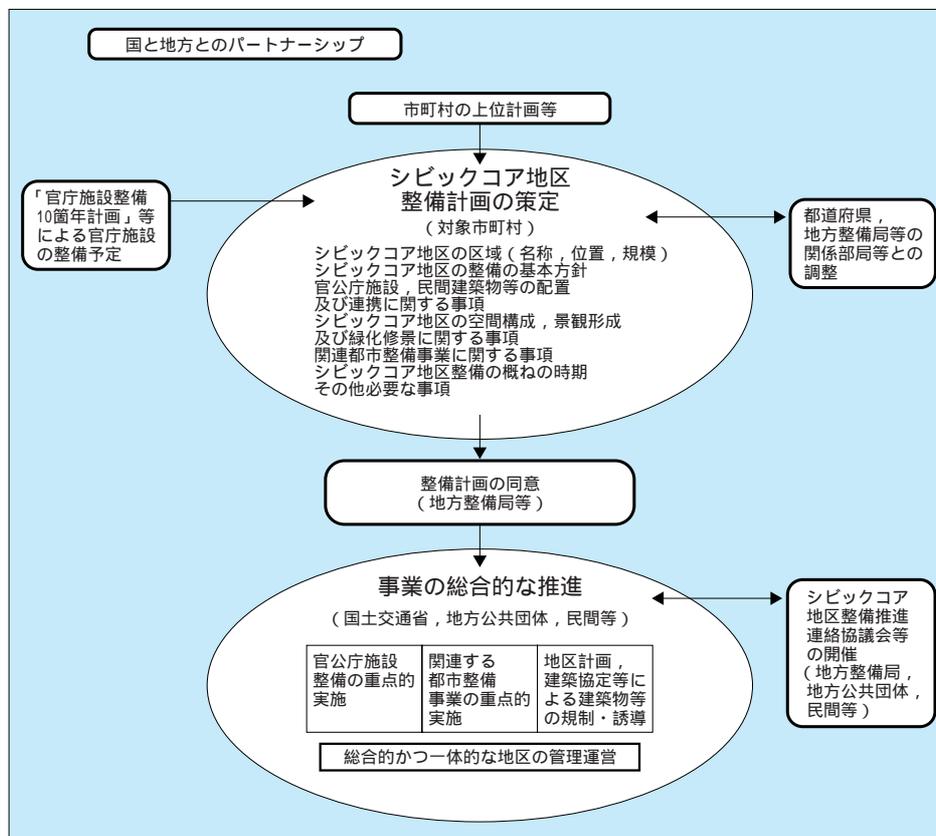


図 2 シビックコア地区整備制度のしくみ



高山市シビックコア地区 整備計画

(1) 高山市の概要

岐阜県高山市は、岐阜県の北部、飛騨地方のほぼ中央に位置し、乗鞍岳や御嶽山など3,000m級の山々に取り囲まれた人口約6万8,000人弱の地方都市で、年間約320万人の観光客が訪れています。

(2) 整備計画策定の経緯

整備計画の検討は、平成4年の高山市と当時の建設省中部地方建設局による「まちづくりに関する打合せ」に端を発します。

その後、飛騨拠点都市地域の指定、高山駅周辺土地区画整理事業の認定等により、まちづくりの上位計画、関連計画・事業が整備されたため、高山市により平成14年8月に「高山市シビックコア地区整備計画書策定委員会」が設置され、整備計画策定の検討に入りました。

委員会は、岐阜大学の宮城教授を委員長として、国・岐阜県・高山市・地元関係者・シビックアドバイザーの計10名の委員で構成され、3回の審議を経て、平成15年3月に「高山市シビックコア地区整備計画（案）」が策定され、この8月に同意をうけました。

(3) 整備計画について

今回策定された整備計画では、JR高山駅周辺の17.8haを「高山市シビックコア地区」として設定し、三つの拠点からなる複合的な都市核形成を目指し、周辺との連携を考慮した一体的なまちづくりを行うこととしています（図3、4）。

また、同地区においては、中部地方整備局の事業として、「高山地方合同庁舎」の建設を計画（着工年度未定）しています。

(4) シビックコア地区の整備目標

官公庁施設と民間建築物との連携に配慮し、関連する都市整備事業との整合を図りつつ、魅力ある地区を形成するため、まちづくりの課題を踏まえ、テーマを設定し、整備目標を定めています。

① まちづくりの課題

- ・ 中心市街地の空洞化
- ・ 公共交通機関の低迷
- ・ 駅西地区の低い都市集積機能
- ・ JR高山駅東西地区の分断
- ・ 歩行者流動に対応した空間確保
- ・ 駐車場需要の増大
- ・ 官公庁施設の分散・老朽・狭隘

② テーマ

「新しいまちに伝統が息づく交流拠点づくり」

③ 整備目標

- ・ 都市核の形成と中心市街地機能の強化
- ・ 行政機能の集約化による利用者サービスと行政活動の向上
- ・ 文化・福祉などの市民活動拠点の形成
- ・ 交通結節点機能の向上と駐車場整備による歩行者流動の創出
- ・ 都市環境形成のモデルとなる高山らしい都市の顔の形成



図 3 高山市シビックコア地区の区域

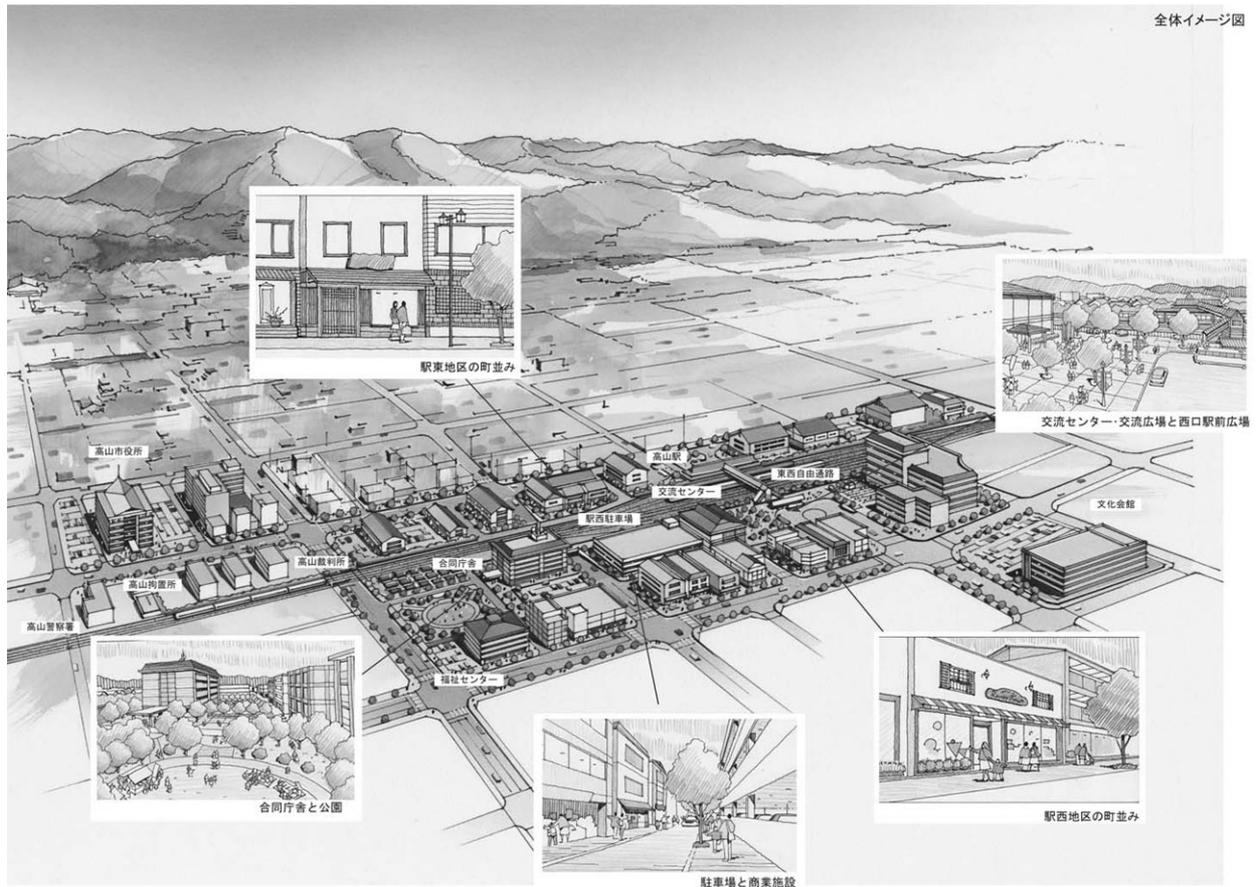


図 4 高山市シビックコア地区全体イメージ図

(5) シビックコア地区形成の効果

シビックコア地区整備および区画整理事業等の関連都市整備事業の実施により、次のような効果が期待できます。

- ・ 1日1,000人の集客力を持つ合同庁舎の誘致に伴う関連民間行政サポート機能、商業サービス機能等の集積による都市核の形成・中心市街地機能の強化
- ・ JR 高山駅東西地区の連結による駅西地区の活性化・賑わいの創出
- ・ 駐車場整備による玄関機能の向上、歩行者ネットワークの形成による地区内外を結ぶ新たな歩行者流動の創出
- ・ 国、県、市の施設の連携による利便性の高い行政サービス拠点の形成

4 おわりに

国と地域が、より一層、協力・連携してシビックコア地区の整備を推進していくためには、公民パートナーシップを確立させることが必要となります。

市町村では、景観形成ワーキングの開催など市民参加の場を積極的に設けるほか、国・都道府県・市町村・地元関係者等による「シビックコア地区整備推進連絡協議会」を設置し、各種事業の円滑な実施のための調整を行うこととしています。

また、整備局でも、各種ワークショップ、シビックシンポジウム等の開催により市民参加を積極的に進めていくことで、パートナーシップの確立に寄与していきたいと考えています。